

平成 29 年度第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：平成 29 年 5 月 31 日（水）13:30～15:30

場所：久慈地区合同庁舎 6 階第 4 会議室 A・B

1 開会

2 挨拶

【八重樫局長】

県北広域振興局長の八重樫でございます。皆様にはいつもお世話になっております。本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

いわて県民計画を県で策定しているわけですが、資料をお持ちの方は、資料 4 のいわて県民計画を御覧いただければと思います。その中の 8 ページに県北広域圏域の目指す将来像として、「培われた知恵・文化、多様な資源・技術を生かし、八戸圏域等との交流・連携を深めながら、持続的に発展する活力みなぎる地域」というものを設定しております。県北圏の目指す将来像の実現に向けて様々な取組・政策を行っていかねばなりません。今年度は、まず一つに、「震災からの本格復興と圏域の地域特性を生かした復興」、二つ目に「人口流出防止・定着促進」、四つ目に「台風 10 号災害からの復旧・復興」を重点的に進めていく必要があると考えております。

復興につきましては、被災当初に 8 年間の復興計画を策定しまして、今年度と来年度が最後の 2 年間ということで、今年が第 3 期の復興実施計画の初年度ということになります。第 3 期残り 2 年の復興計画の初年度として、今年度は多様な主体の参画や交流、連携により、復興事業の総仕上げを視野に、復興の先を見据えた取組も必要であると考えてございます。本日は、県民計画に基づきまして第 3 期アクションプランを策定しておりますけれども、これの推進に向けて、今年度の県北広域振興局の振興施策について、運営委員の皆様から様々な御意見を頂戴したいと思っております。専門的な立場での忌憚のない御意見・御提言を頂戴できればと思っておりますので、今日はよろしく申し上げます。

3 議題

【和山参事】

議事に入ります前に配付資料の確認をさせていただきます。本日配布しました資料が次第と出席者名簿、それから座席表です。事前送付した資料は、次第の下に四角で囲んでおりますとおり、資料 1 から資料 5 となっております。恐れ入りますが足りないものやお持ちでない資料がありましたら、事務局までお申し出ください。

それでは議事に入らせていただきますが、県北広域振興局地域運営委員設置要綱第 4 の規定により、運営委員会議は局長が主宰することと定められておりますので、ここからは八重樫局長が進行いたします。

【八重樫局長】

それでは議事を進行させていただきます。本日は挨拶の中でも申し上げました「平成 29 年度県北広域振興局の振興施策について」の意見交換をさせていただきます。はじめに当局の経営企画部企画推進課長から今年度の県北広域振興局の重要課題について説明いたします。

その後、委員のみなさまから御意見を頂戴したいと考えております。それでは説明をお願いいたします。

【中里企画推進課長】

(資料No.1「平成 29 年度県北広域振興局重要課題」について説明)

【八重樫局長】

それではただいま説明しました重要課題、その他の資料につきまして、委員の皆様それぞれの立場で御意見を頂戴できればと思います。それでは順番に大崎委員からお願いしたいと思います。目安としては、お一人 3 分程度で御意見を頂戴しまして、3 分程度で意見交換というような形で考えております。それでは大崎委員からよろしく願いいたします。

【大崎委員】

平成 21 年の岩手県民計画策定してから仕上げの段階に入っていらっしゃるのかなと思ひまして、自分では 10 年前から何を始めていけば今もっと良いことになっていたかなと考えてみたのですけれども、農林水産業への就業は 10 年前からずっと課題としては続いているのかなと思ひます。もちろん志を高くもって新しくよそから来てくれたという方もたくさんいらっしゃると思うのですけれども、この 10 年間にいざ来てみたけれども、途中でお辞めになったり、帰られたりした方も大勢いらっしゃると思ひます。うまくいっている方はいいと思ひますが、辞められた方の中に実は定住に向けてのヒントがあるんじゃないかと自分で過去を振り返ってみて考えまして、可能であれば離れた方に、「なぜ離れられたか」ということをぜひ聞いてみたいという風に思ひました。あと、うちは炭屋さんなので木炭のことで言いますと、もっと通信販売というものに力をいれてやってきていけば良かったという風に反省しております。振り返ってみて、どうして通信販売というものがうまく定着していないのかと思うと、炭を焼いている人っていうのは、ほとんどうちの父親世代である 70 歳とか 80 歳代が中心なんですけれども、電話での問い合わせなどをすごく嫌がる年代で、パソコンも使えればいいんですがみんながみんな使えるわけじゃないということがあります。そこをサポートするのが私たちの世代だったのかなという風に今となっては反省しております。以上です。

【八重樫局長】

新規就農についてですが、ここ 2~3 年は年 10 名くらい新規就農者がいるわけですがけれども、離れた方の理由は何かわかりますか。

【佐藤農政部長】

第 3 期アクションプランの中で、久慈地域では毎年 16 名の新規就農者の確保を目標に設定しています。これは久慈管内の農地面積や現在やられている認定農業者の方が持っている面積などをもとにしまして毎年大体これくらいの農業者を確保すればいいのではないかということと考えております。あとは市町村のそれぞれの計画を参考にしながら 16 名ということで設定しております。平成 27 年度は 15 名ということで足りなかったということですが、現在暫定ですが平成 28 年度については 19 名の新規就農者ということでなんとかそういった目標をクリアしながらやってきております。今お話しをされた、なぜ離農されたかというところまでは具体的にはお聞きしていることではないですが、最近におきましては 9 割程度の方々が農業を継続されている、1 割程度はやはり離農されている方もいるんですけども、まずは順調に定着されているのかなと考えております。そういった状況の中で農政部としては、普及センター等々と一緒になりまして新しく就農された方々の巡回指導というようなことも

含めながら対応させてもらっているのが現状でございます。1割の方がなぜ離れたかなというのやはり今お話しされたとおり、実際この地域の対策を組む上では大変重要なことだと思います。ありがとうございます。

【八重樫局長】

そこらへんは注意して把握しておきます。あとは木炭の通信販売ということですが、今木炭関係どのような状況でしょうか。

【阿部林務部長】

今木炭の通信販売の話がございました。なかなか木炭を販売してくのは難しいんですけども新たな動きとして、北いわてで木炭生産者が組合をつくっておきまして、今年目標が地理的表示ブランド（GI）の取得ということで取り組んでおります。岩手の木炭の品質の良さを、GIを所得することでPRし、もっと今より単価を上げようという取り組みでございます。実際は県の木炭協会が取り組むこととなりますが、今日の新聞にもありましたけれどもあの建物を売って、本来の木炭の振興に頑張りたいというような動きもあるようです。振興局としても地域経営推進費というものを活用して、木炭生産者の意識改革を促すための座談会を開催することとしております。そういう取組を通じてですね、後継者の育成や木炭の売り込み等を促進していければなと考えているところでございます。

【八重樫局長】

今木炭関係は色々変えようということで動いておりますが、その一つとして今後通信販売も検討するという事かと思っております。よろしいでしょうか。それでは次に大建委員、よろしく願いいたします。

【大建委員】

自分たちのところはほとんど観光メインで回っているので観光のところを少しお話させていただこうと思います。あまちゃんを活かしたロケツーリズムの推進、あま協さんとの連携ってというのがあったんですけども、新幹線で二戸の駅に降り立ったお客さんが泊まっていて「次の日に久慈に行くんです」と言う方もいまだにたくさんいて、あまちゃんファンの方も切れずにいらっしゃっているような状況です。「久慈に行ったらどういうところを見たほうがいいですよ」とかというのも前の日にお客さんが分かたら一番いい情報なんだろうなと思ったので、この辺ももし何か具体的にここに行くとか何があるよとか、あまちゃんのことに関して何か情報があればもらっていきなさいなと思います。他にも観光の面で、九戸政実武将隊とか山・川・ゆたか体験交流倶楽部とおもてなし課長も絡ませてもらっているんですけども、全体的に若者が中心になっているような活動が多いんですが、その中でも「地元の人が地元のこういういいところがあるんですよ」というところを紹介するっていうものをメインにしている地元のことしか分からないので、久慈側の例えば若者たちのフレッシューズカフェとかというものもあると思うんですが、何か特別な活動をしているのであればそれもちょっと知りたいなと思いました。

あとは観光のモニターツアーとかの農産物のブランド化ってところなんですけども、県外からお客さんが来たときに、まずいらっしゃるのって確実に宿泊施設って来ると思うんですけども、そこの方達との連携をもうちょっと取れると一番いいかなと思うんです。美味しいものを食べてもらって「これはどこに行ったら買えるんですよ」とか久慈の方に行くと「いつ時期は何がありますよ」とか「冬恋はこの辺で買えますよ」とかですね。あとは漆器を使って食べてもらうとかっていうものの窓口になれそうな場所なので、そういったような方ともうちょっと何かお話しできる機会があればいいなと思っております。以上です。

【八重樫局長】

あまちゃん関係の情報ですけども、資料1のⅢの体験・交流型観光の振興に写真を載せております。ドラマのロケ地やあまちゃんの舞台というような写真ですが、パソコンのサイトで見れるような形になっております。パンフレットとして配布しているかどうかは確認しますが、ファンの方は若い方中心かと思うんですけども、このサイトを見ながら来ている方が多いのかなと思っておりますので活用していただければいいのかなと思います。あとは久慈・二戸の観光パンフレットも作成しております、大建さんのところには届いていますか。

【大建委員】

届いています。ほんとにざっくりした情報が載っているんですけども、例えばそこからもっとこう変わった情報が分かるものがあれば助かるなと思います。結構最近いろんなイベントで、この間冬に久慈の方でやってらっしゃったジビエとかも、意外と見落としがちなところがいっぱいありそうな感じがしてもったいないなと思ったので、いち早く察知できる方法が何かあると観光的に凄く助かるなと思っております。

【八重樫局長】

振興局としては最新のものをすぐという形にしたいと思っているんですけども、難しいところがあります。例えば、先ほどの件は旧山形村がやっていたものについては久慈市が、サイトにも観光関係で出しており、そういうところでPRしていると思います。最新のものとなると、パソコンなどで見ていただく方法がいいのかなと感じております。県としても早目の情報を出したいなと思います。どうしても早くというとパソコンで見れる、携帯で見れる観光関係のサイトになってしまいます。あとツアーの関係は、二戸も久慈も「こういった良いところがあるよ」とか、先ほどお話ししましたパンフレットを活用していただいて、部数に限りはありますが、紹介していただければ非常にありがたいと思います。パソコンのサイト、それから振興局でも作った観光パンフレット、そういったところを活用して、大建さんの所に泊まっていた方が久慈に来ていただけるということでもんね。

【大建委員】

「久慈に行くのはレンタカーかスワロー号だといいですよ」とか「溪流沿いもいいですよ」とかをお話しするのに、サイトを見て下さいというよりも手元で見せられる方が便利だと思います。

【八重樫局長】

なるほど。そこらへんも意識してやっていきたいと思います。

【和山参事】

フレッシューズカフェのお話がありましたけれども、今年4月に高校を卒業して就職された方々が職場でうまくやっているとかが、簡単に離職しないようにしましょうとか、どうしても辞めるときはこういう風にしましょうとかキャリア教育の一環として実施をしているものです。若干観光とは違う観点の事業かなと思います。

【八重樫局長】

フレッシュヤーズ、フレッシュマンのフレッシュャーですね。新採用職員に集まっていたいで、色々悩み事とかをざっくばらんに話してもらって、なるべく悩みを解決していただいて、定着してもらおうという趣旨でフレッシュャーズカフェというのを毎年行っております。新採用職員にはこれが好評であると聞いております。観光とは別ですけれどもこういった事業も行っております。よろしいでしょうか。また何かありましたら後でお願いします。

それでは小野寺委員お願いしたいと思います。

【小野寺委員】

前回の運営委員会では、冬道の道路整備のお話をさせていただきました。我々の目に見える県で動かれている部分っていうのは、道路の開業であったり、冬期間の道路の整備であったりどうしても目に付くものですから、今期も私が使っている道路である山内地区の道路改良をしていただきました。軽米晴山地区から九戸インターまでの通勤に使う道路ですけれども非常に通りやすくなりました。まっすぐな道路にさせていただきありがとうございます。その中でも我々こういう事業をしておりますと、今は県北ものづくりの担い手育成ということで会をつくらせていただいて講習会などを進めさせていただいておりますけれども、昨今我々電子部品ですとか部品の業界はどうしても1年間平準化した生産をすることが一番の課題であります。平準生産することによって労働人材の平均的な雇用ができるということです。以前は繁盛期に関しては臨時的に人材の採用をしてということで、取引先メーカーさんの需要に人材を含めて応えるということでしたけれども、昨今はできるだけ取引メーカーさんにも御理解をいただきまして、年間通じて平準化生産ということを中心掛けております。

そうした場合にもものをつくる現場と、管理の現場、事務的な仕事と内務の仕事、これが相互両方可能でなければ、なかなか平準化は難しいということです。我々もなんとか規模は小さいながら進めていきたいということで、ものづくりの改善塾等々を有効に使わせていただいておりますので、今後も県北においてのものづくりの人材の育成に関してはよろしく願いしたいなという風に思っています。ただ、そういう形の中でもっと県北企業さんの事業拡大や販路拡大のための補助枠について我々のところにも案内で回ってきておりました。合理化というよりも自動化、ラインの投資などということでありましたけれども、応募条件にはどうしても社員の増員ということが謳われていましたのと、短期の中で事業計画を創り上げなければならないということで、今回は非常に残念でしたけど、どうしても今回は間に合わない断念せざるをえない状況にありました。私どもの企業も前向きな形ではあったんですけども、年間の予算枠があるところですので、なかなか厳しいと思いますけども複数年を併せた計画もお願いできれば、来年度とかそういうことに向けて計画立ての部分ができるのではないかなと思います。以上です。

【八重樫局長】

様々な県の補助制度ですね。単年度ではなくて複数年度での補助制度ということでしょうか。

【小野寺委員】

そうですね。事業計画の完成度は31年と長いスパンでみられてましたけれども、届出は5月いっぱいまで終わりですよという形ですので、それが3月に回ってきて5月までに事業計画を含めて創り上げないと我々は非常に厳しいところあるかなと思います。

それと自動化しましょう、もっと生産性を上げて事業拡大をしましょうっていうんだけど、その枠の中には人員増にならないとという一つの部分がついてまわるものですから。

【八重樫局長】

条件になっているんですね。

【小野寺委員】

そうです。条件になっているものですから、そういう自動化して、なおかつ雇用となると県北の中では技術者含めてなかなか雇用が難しいなと思っております。

【八重樫局長】

ちょっと調べてみますけれども、おそらく考えられるのは今年度の予算が3月上旬に議決されて、それからこういう制度がありますよという御連絡をしていると思います。それで早く事業開始をしていただきたいので5月末ぐらいを期限にしたのかなと思います。

【小野寺委員】

それかちょっと私がみるのが遅かったのかもしれない。

【八重樫局長】

もう少し期間を取れるようにとかについては、県庁の商工労働観光部で制度化していると思いますので、話してみたいと思います。

【小野寺委員】

対象が県北地域でしたので非常にありがたいお話ではあるんです。

【八重樫局長】

そこは話をしてなんとか良い方向にいくように努力したいと存じます。あと、ものづくり改善塾は、私も何度か出席させていただきましたけれども、各会社から若手が来て、色々と他社の良いところを吸収していくということでした。今後も積極的に充実した形で取り組んでいきたいと考えております。ありがとうございました。それでは木戸口委員お願いしたいと思います。

【木戸口委員】

私は社会福祉協議会に勤めて福祉関連の仕事をしているわけですが、資料1のところには福祉の部分については触れてないなと思いました。説明の中で、若者の人口減少率というのを見て、51.6パーセントの若者たちはどこにいったんだろうと思いました。前回参加した協議会の中でも人材が不足している、あるいは事業を継続していくところでは跡継ぎがないとかですね、そういうようなお話も聞いたように覚えているんですけども、先ほど若者女性の活躍支援だとか、食産業やものづくり、あるいは体験交流、観光とか様々なイベントが予定されているわけですので、こういったところに県北地域で生活している子供たちがこういったイベントに参加できるような工夫をされると、県北ってこんな素晴らしいイベントもあるし、こんなものが売ってたし、例えば炭でも漆でも工芸品なんかも展示されてたり、あるいはこういった形で作られてるんだというようなところを今の子供たちが、目に触れたり、手に触れたりすることで地元って素敵だなといった思いがあればもう少し若い世代の減少とといいますか、食い止められるのかなと思ったりしたところです。一つのイベントでも福祉関係の施設に入所している高齢者、障がいをもった方々、県北地域にもたくさんいらっしゃるわけですので、敬遠されるイベントもあるかもしれませんが、そういった方々に対しても参加対象とといいますか、何か参加できるような枠があれば、そういった方々の家族だとか子供さんとかも一緒に参加して、色々な知識や交流の機会を持つことで、相乗効果といったものも生まれてくるのかなという風に感じました。今後福祉の分野でも2025年に団塊の世代が後期高齢者になるということになれば、各市町村で進めているわけですが、相当数の介護だとか地域包括ケアっていうものも支える若い力を大事に育てていかなければ大変なんじゃないかなと心配をしたところです。私からは以上です。

【八重樫局長】

先ほどの若い人が地元の良いところや良いものを知ることについては、資料 1 のⅢにあるあまちゃんロケ地の写真の下になりますが、カシオペア体験交流クラブというものがありまして、色々なメニューがあつて、色々な体験ができるというものがあります。

【千葉副局長】

大建委員には、おもてなし課長ということで参加いただいているところです。

【八重樫局長】

各学校にもパンフレットを送付しておりまして、様々な体験メニューがあり、利用される学校が最近増えております。

先ほど話がありましたおもてなし課長は、体験交流クラブの中で任命されていまして、その中で大建委員が課長の一人としてパンフレットに出ております。大建委員にはブルーベリーの摘取り体験やりんご収穫体験などを指導いただいているところでございます。その他、体験交流クラブでは縄文関係など地元の様々な体験ができます。どんどん利用者が増えているので今後も続けていきたいと思っております。

福祉施設にはこういったパンフレットは置いてあるでしょうか。

【千葉副局長】

福祉施設にはないですかね。観光施設や公共施設、合同庁舎にはずっと置いてありますけどね。

【八重樫局長】

ちょっとそこは課題かもしれませんね。いずれ若者でも大人でも、そういったものも活用していただければと思います。青森県など他県からも希望者がありまして年々増えているところです。

最初に申しあげました若者の人口減少率が県平均を上回っているという資料 1 の右上の所です。先ほど中里課長からも説明がありましたが、もう一度お話をしますと、平成 3 年のときに 0 歳から 4 歳の方々が 8062 人いたんですね。その方々が 25 年経って、25 歳から 29 歳になったときに、地元は何人いるかというのがこの数字で、3900 人しか地元に残っていないということになります。出入りはあるかと思うんですけども、そこだけ比較すると 5 割くらい減っていることになります。若い方なので自然減はあまり考えられないので社会減になり、理由としては、進学就職が考えられると思います。実態はこのような感じになります。県全体にしても 3 割くらい減っていて、岩手県全体がそういう状況で、特に県北は顕著だと

というのがこの数字で見てとれるのかなと思います。

仕事関係、進学の関係、県外に進学するとそのまま県外に就職するといったものが多いのかなと見ております。進学や就職などで県外に行くことを社会減と言っているんですけども、県はなんとかその社会減を少なくしようという取組を進めようとしております。例えば、就職は高卒ですと地元就職率を上げようという取組をしております。幸いなことに今年の3月に二戸と久慈の卒業した高校生の地元就職率は上がっています。特に二戸地区はかなり上がっています。

【千葉副局長】

県平均に近づいたということになると思います。

【八重樫局長】

県平均までは及ばないですけども、昨年に比べればかなり地元就職率が上がってきたというのが今の状況です。そういった取組がいくらか効果があったのかなと考えております。昨年の運営委員会議では、こういった取組をしていますよということだけを説明してきたんですけども、今回は県北圏の現状はこうですよというのを、かいつまんだ資料ではありませんが、委員の皆様にもご周知していただきたいと考えて説明させていただいた次第です。

それでは次に佐藤委員お願いします。

【佐藤委員】

私が携わっているのは高齢者介護のことなので、そちらの分野でお話をさせていただきます。地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいますけれども、一戸町でもやっと地域住民の生活の困りごと相談を中心に行う生活支援コーディネーターの配置がやっと確保されました。遅ればせながらというところです。今後は、コーディネーターの機能と地域の専門職や民生委員さん、地域の力を活用しながらの生活支援をしていくことでその後の構築に向けて力強く進めていきたいなというところで市町村と話し合っています。カシオペア地域医療連携研究会というものがあるんですけども、二戸病院で定期的な開催が行われています。保健や医療であったり、介護従事者の方が多く参加しています。昨年のカシオペア市民フォーラムでは、専門職のほかにも一般住民に呼びかけて市民フォーラムという形で、看取りをテーマにかなりの参加者があったと思うんですけども、講演会のお話を聞く事もできました。今年度も6月に市民フォーラムで今回は広島から有名な先生が来てくださって、地域医療についての講演会があります。私も楽しみにしているんですけども、従事者の職員が多くて、一般の方に開放しても地域住民の方が少ないかなと思っております。もしかする

とPR活動が足りないのかなというところを少し感じているところです。県の方からカシオペアの出前講座などで、認知症であったりと色々なことを行って下さるとお話をいただくんですけども、当事業所でも実績がなく、地域の方からもそういう出前講座を開きたいねとお話を伺っても、そうだねって言ってまた一步のところまで時間帯など色々なところで踏み出せないところが多いので、そういうところもうまく活用していきたいなと思っていました。

あとは、地域で支える高齢者支援ということで、世帯に問題がある方なんですけれども、そういうところは包括センターであったり、医療等々の連携、協働での連携が本当にうまくいっているのがカシオペア圏域かなと思っています。ケアマネさんなんか10年前に比べて本当にやりやすくなったというお話をしています。色々な支援を受けての結果かなと思っています。あと、私たちも職員の研修会を企画したり、色々なものを行っているんですけども、その内容がケアマネさんであったり、在宅の研修会が多いかなというのも、同じ仕事をしている中ではケアマネさん向きが多いよねというお話も聞いていました。

認知症対策についても、私が住んでいる一戸町ですけれども支援センターがあるので、県立一戸病院には認知症認定看護師が配置になっていました。専門的な相談もできるということで、私たちのような専門職もまた相談にはいけるんですけれども、地域の住民の方がそういう方にうまく相談に行くことができたり、気軽に訪問にいった相談できるような雰囲気になればいいなと思っています。

あともう一点がカシオペア権利擁護ネットワーク会議があって、参加したことはないんですけども、同じケアマネさんなんかでも独居者であったり、精神障がいへの支援をするときにやはり権利擁護の活用も必須になってきていると実感しているということです。件数もどんどん増えているということですので、もう少し知識も広めていきたいなと思っています。

あと一戸町は介護医療障害の分野の専門職で障害高齢者、一戸病院の精神科に入院している方々の問題についての検討会も設けていました。昨年度は、病院から在宅、在宅というのはアパートであったりグループ訪問もあるんですけども施設、それも在宅というそうです。あとは有料なんかも、そういうところに何十年も入院している方が10名以上でしたか、そういう検討会で外に出られたという実績もあるようなので今後もいろんな方面で検討していきたいという話がそういう会議では出ていました。

また、生活困窮者への支援というところになると、まずケアマネさんが中心なんですけれども訪問して困窮制度に繋げる世帯も大分多くなってきていました。地方の人口減少も問題との事でしたが、介護現場での人材不足は続いております。私の施設では新卒者を採用することができませんでした。転職、退職者を採用することはできましたが、魅力ある職場づくりを職場全体で考えていかなければと感じているところです。私の子育てしてた時代と違って男性職員の育児休業取得の実績もあり、かなり改善されているところもありますので、職場体験などで情報を提供していければと思います。町内の他施設での新卒者採用も3、4人

と少なかったようです。

あとは先ほどのあまちゃんなど色々なPRのところ、私は子供の関係で陸上クラブとか色々なところに顔を出すんですけれども、久慈のマラソン大会に来て観光をしていくとか、りんご狩りでしたか、私も昨年参加しましたけれども他のところから来てる方も多いですよね。地元はマラソン大会で小学校で来るのだけれども地元のりんごまで採って楽しんでいくって雰囲気はないんですよね。マラソン大会が終わるともう引けてしまったりという形もあるのでマラソン大会だけでなく、色々なところに、地元の産業とかを見せられるような感じの雰囲気に繋がればいいかなと感じていました。以上です。

【八重樫局長】

ありがとうございます。様々なご意見をいただきました。今のお話といっても一つだけじゃなくて、せっかく来てもらったのだから他に良いところを体験していただきたいということですね。私も昨年4月に県北局に来まして、久慈も二戸も、県外の人もそうですし、県内でも県内部の人とか、知らないという方が結構いらっしやると思います。いまだに盛岡から久慈だと3時間かかると言うんですよね。何十年前の話だってことなんですけれども、いまだにそういうイメージがあってそこらへんは何とかしなければと思っています。

【下山保健福祉環境部長】

地域包括ケアシステムをはじめといたしまして、福祉のほうのお話がありました。高齢化社会が進むということで医療・介護・福祉の面で団塊の世代の方が後期高齢者となる平成37年までに住み慣れた地域で暮らしていけるように、地域包括ケアシステムを市町村が中心となってやっているわけですが、市町村もマンパワー、特に町村、小さいところには限りがあって大変苦戦している状況ですので、市町村の支援をしっかりとしていきたいと思っています。

また、直接、行政とか福祉団体とか関係者の皆様だけではなく、一般の皆様、住民の皆様に対して啓発していくこと、状況を正しくお知らせしたり、色々PRをしていくことが必要だと思っております、いずれ地域住民すべての問題ですので、住民を巻き込んで取組を進めていきたいと思っております。

それから福祉施設とか介護の人材確保のお話がありました。確かに雇用情勢は、かつてないほど今は全体としては良いという話がありますが、部分的にみると、例えば介護とか、ずっとこのところ人手不足の状態が続いております。そういうことで、例えばハローワークさんとか振興局でも福祉現場の見学会等もやってございますし、保健所でも、病院等で医療の現場の見学会等を中学生を対象にして開催しており、少しでも人手が必要な医療とか介護に、若者、中学生くらいから関心を持っていただけるようにということで取り組んでいま

すが、さらにそういった関係者、施設の方ですとか病院の方ですとか学校とか、お話を聞きながら有効な取組を進めていきたいと思っております。

【八重樫局長】

佐藤委員よろしいでしょうか。

【佐藤委員】

はい。ありがとうございました。

【八重樫局長】

また何かありましたらお願いいたします。それでは澤村委員よろしく申し上げます。

【澤村委員】

私は洋野町食生活推進協議会の会長をしております。いつもは脳卒中予防ということで減塩に取り組んでいます。昨年度は希望郷いわて国体がありました。洋野町では軟式野球が開催され、4日間のお振る舞いを行いました。郷土料理ということで第1日目はいちご煮を提供いたしました。400食が15分でなくなってしまいました。本当にあつという間でした。「やっぱり洋野のいちご煮はうまいんだな」とそう思いながらお振る舞いをしたわけですが、こんなにも美味しいウニを、後継者が不足しているということ、これは本当にどこの組合に行っても話が出ることです。今は海に入る子供たちも少なくなりました。なので小・中・高とツアーみたいなものを、ウニ採り体験をしますということでできたらいいな、そういうことと、それから若者離れとありますが、私のように海に入って潜ることが好きな子供たちもたくさんいると思うんですね。若い人達が興味を持ち、仕事をしたいなと思ったときに助成をいただけるかどうか。夢を持って、この三陸の海にいていいんだよ、そしていっぱいウニ、アワビを採ってくれとそういうような思いで県や町から助成を若者に頂けたらいいなと思います。私の理想としては会社みたいなものがあるって保険を若者にかけていただいて出ていかないようなものが本当に理想です。たくさんの助成をいただき、そして若者が地元に残るように考えていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

【八重樫局長】

私もここに来て住んで仕事をしているのは今年の4月からなんですけれども、ウニにつきましては本当にお世辞抜きで美味しいなと堪能しております。

【澤村委員】

ありがとうございます。

【八重樫局長】

そうですね、ぜひ後継者が育つようにお願いしたいのですけれどもいかがでしょうか。

【石田水産部長】

残念ながら震災を契機にして県内全体、管内もそうですけども、漁業者の数が概ね2割から3割減りました。高齢の方から漁業再開を諦めるという方が出ていまして、現実的にはそういうことになっています。ただ、漁業を専業でやられる方は現在少しずつ増えていますので、年齢で言うと40代から50代の方は着実に増えていて、その方々が漁業の生産の中核を担っているという構造にだんだん変化してきておりますので、全体としての漁業就業者は高齢の方から減ってはきていますけれども、中心となる方は着実に増えているというところが今の漁業の状況です。管内でも毎年、10名から15名くらい新規の就業の方がおります。その方の内容をみますと、一旦東京に出ていって、40代後半になってから、それくらいになって戻ってきて、洋野町であれば親父の跡を継いで海に潜りに行くというような方が出ていますね。一旦出ますけれどもUターンして帰ってくるという方々の定着率は非常に高いです。管内の市町村でも支援する形ができていて、戻ってきた方を対象に就業支援ということで支援金を助成しています。まだ洋野町は一部ですけれども、野田村とか普代村では1年目は毎月10万円ずつ、2年目は8万円、5万円というようなかたちで支援して、漁業に必要な資材とか用意するための支援があります。それからもう一つは住むところですね、住居の手当までもしている市町村がありますので、漁業そのものだけでなく生活全般をサポートする市町村の態勢が徐々に出来ておりますから、そういう形で若い方々を受け入れてしっかり地域に定着させるような施策をこれからもっと進めていきたいと思っておりますので、御協力の程よろしく願いいたします。

【澤村委員】

はい、わかりました。ありがとうございました。

【八重樫局長】

よろしいでしょうか。それでは十文字委員よろしく願いいたします。

【十文字委員】

とり合戦とか学生デザインファッションショーとかやっていたいて本当にありがたいな
というか地元の認知度が非常に高まっているっていうことについては本当に良いんじゃない
かなという風に思っております。ただ、我々とり業界なわけですけども、鶏肉の消費量自
体データがあるわけではないんですけども、おそらく地元だからといってたくさん食べて
いるわけではないというのがまだ現状で、我々も努力しなければならないところではあるん
ですけども、チキンであれ木炭であれタバコであれホップであれ漆であれ、とにかくやは
り一番近いところからたくさん消費する、使うということがなければ外に発信していくとい
うのは無理な話じゃないかなという風に改めて思います。我々も昨年直売会というものをや
り始めたんですけども、そういう取組が業者にも必要だと思いますし、県の方でも掘り起
こすようなことをやらせたらいいんじゃないかなと思っております。

あと農産物のブランド化のところなんですけど、自社の経営に携わって、ずっと経験してい
る中で鶏肉だけじゃなくて当てはまるような気がするんですけども、付加価値にいきすぎ
るとことは競争力が落ちることにもなりかねないということが経験上あります。鶏肉の
ことを言えば、過熱して加工してしまえば輸入品も国産も同じ土俵にあがる。生の場合は、
国産は冷凍もしないまま出る、輸入品は冷凍して解凍したものを使う、そこでの違いとい
うことで、性能は全然違うということで国産が評価されているわけですけども、うちも昔ち
ゃんと理解せずに加熱・加工がトレンドというか付加価値かということで、銘柄にも取り組
みながら加熱・加工にもやったんですけど全然採算がとれなくてやめてしまったというこ
とです。やはり本当に鮮度が大事だと思いますし、生の素材の良さっていうのを一番に売りに出
していくというのが絶対必要なんじゃないかと思えます。あまりごちゃごちゃ付加価値か
つていうと本当にぐちゃぐちゃになってしまって、結局あまり差別化できないことになりかね
ないんじゃないかなと感じております。

やっぱりアイデアというのは必要なかなと思えます。先週初めてだったんですけども、
今有名な格之進の千葉社長の東京のお店に行ってきたんですけども、一関あたりの牛肉を熟成して東
京の方々に売っている店で、東京で10店くらい店を出して、私は食事をしてきたんですけども
客単価が1万3千円くらいだったわけですけども非常に順調に伸ばしてらっしゃる。
発想を聞いていると牛肉の上にウニを乗せて食べさせているとか、それがもう名物料理みた
いなそこがお店の箔を、レベルを高めて料理として代表的な。みなさん笑いますが冗談じゃ
なく本当に美味しいんです。食べただけでもものすごく美味しいんだろなというのが分か
りますよね。ということですのでい東京でブームを導いているのが一関の千葉社長だと思
うんですけどもそういった発想で、生をいかしていくっていうのをとにかく忘れずにやっ
ていくべきではないかなと思えます。やはり我々が今、会社が存続していただけるのもあまり付
加価値に走らずに通常の商品としての競争力がしっかりあるというのが大事だと思います。そ

ういったものって大体下のコストが高いところから落ちていくわけですよね。とりの業界のことだけを言えば、付加価値だけに取り組んでいったところはどんどん潰れていきます。そういう罨にはまらないで、こういう業界は大量に作ってコストを下げるというのがあるんですけれども、付加価値っていうと誰も文句を言わないで美しい世界みたいなことで、誰も文句を言わないと思うんですが、罨があるような気がしてならないので気をつけていただければなという風に思いました。産業のことについては、私も資料1の右上の数字も見させていただいてショックと言えばショックだし、実際そうだとすればそうだと思いますけど、今この地域ってというのは出稼ぎをたくさんしている地域なわけですけれども、将来はこうやって今の高齢者の方々がもっとピークを迎えて、半分が高齢者みたいな地域になった後は、ここは逆に都会から出稼ぎに来るくらいに30、50年先はそういう風になってくるのじゃないかなと、そういう意味での産業の成り立ち方っていう風なことも考えていかなければならないのかなと、こういう数字を見させていただくと、なにか心配になってしまいました。

あと観光のところなんですけど、今スマホで調べてみたんですけども私も最近遠い県なんかに行ったりすると、「何県 観光」とかって検索するわけですね。それで今改めて、岩手県 観光で入れてみたら今定番の観光地より隠れた魅力を持った観光地の方が検索の上位にくるんですね。定番観光地ってというのは何でも書いてある。みなさんがネットで調べたいのは隠れた魅力のある観光地。それがベスト15って書いてあったんですけど、県北がゼロでございまして、やはり寂しいなと思いました。定番の観光地の中に龍泉洞があって一番北のほうにあるのはそれくらいでそれより北のほうには何もないのかなと思うと頑張らなきゃいけないなと思います。

ちなみに最近のテレビで見た話ですけれども、所さんの目がテン！っていう番組でつい先週だったですかね、御所野縄文公園が30分特集でやられてて、原始人の格好をして楽しくやっていたけれども、ここに書いてある御所野縄文公園体験っていうのはどういうことをやっていたのかなと思ったところで、中途半端なことをやってちゃいけないのじゃないかなと思います。御所野縄文公園をクローズして、そこで2泊3日とか3泊4日とか、縄文人の格好をさせてそこでずっとその生活を、本気で火起こしから何からやって、何もそれ以外はないよっていうくらいものすごい体験をさせるくらいの、そういうことを番組の中でもやっていたわけですけれども、石の斧で木を切ってみたりとかですね、そういう風な本気の体験をできることをすれば、もしかしたら隠れた魅力の中に入ってくるのかなという風に勝手ながら、発想の転換がさっきのウニをステーキに乗せるのじゃないですけどちょっとしたそういうことで出てくるような気がしますので知恵の出どころではないかなと思った次第です。以上です。

【八重樫局長】

ありがとうございます。御所野の体験はそこまでのメニューのものではないですね。小学生が体験するものですね。

【千葉副局長】

小学生が食づくり体験ですとか行うものですね。

【八重樫局長】

鶏肉の生産が鹿児島、宮崎、岩手が3番目ですね。

【十文字委員】

生産はそうですが、盛岡市の消費っていうデータがでるんですけどやはり40番目くらいだと思います。この地域は豚肉がすごく盛んだったと思いますので圧倒的じゃないかなと思います。

【八重樫局長】

あとは農政関係で鮮度、生の良さをいかした取組がいいんじゃないかというようなことがございますけども、いかがでしょうか。

【佐藤農政部長】

農畜産物の高付加価値化ということで6次産業化の取組をやらせていただいているわけなんですけど、私たちは素材そのもので売るよりも更にそこに手を加えたことによってより収益を高められるという農家所得を考えた中で6次産業化に取り組む方々の支援をやっています。そういった中で素材の良さ、生の良さということも確かにおっしゃるとおり、県北地域の農畜産物そのものの良さもアピールしていかなければならないと感じたところでございます。引き続き今後の対応の中でそういったことも考えながらやらせてもらいたいと思います。ありがとうございます。

【八重樫局長】

あと先ほどベスト 15 の中に県北が入っていなかったということですがけれども、私が思っているのは、知らないというのが結構大きいのかなと思うんですね。良いところは沢山あると思うのでそこらへんは御意見をいただきましたし、大きな課題だと思うんですが、課題として検討していきたいと思っております。よろしいでしょうか。それでは引き続きまして田口委員よろしくお願ひいたします。

【田口委員】

二戸市で保健委員をしております。今日午前中に総会をしてきたんですが、保健所の所長さんがおいでいただきまして今日は二戸におりまして色々アドバイスをさせていただきました。

【八重樫局長】

鈴木所長ですね。

【田口委員】

はい。岩手県が脳卒中死亡率ワースト 1 ということで塩分をとりすぎるとかというお話をしていただいたんですが、やはり長い年月にこう、徐々に身体が老いてくるわけですので昨日今日の塩分のとりすぎとかじゃないわけで、それが積もり積もってある時にそういう脳梗塞なりなんなりを起こすわけですが、私たちは役所とのパイプ役で住民の健康を守るために検診の通知書を配布したりしております。今年度は検診率を上げようということで、保健師達も一生懸命頑張っていたらいて検診率の悪かった地区をメインに取り組んでいくというお話をいただいております。私たちも一生懸命声掛けはするんですが、個人一人一人が心掛けなければすぐ改善できるわけでもなくて、長い目で見てある日突然倒れたってというのは急に悪くなったのではなくて、徐々に悪くなってそうなるのであるということ、まず声掛けをして検診率を上げて、悪いところが見つかったら治療して、寝たきりとかにならないように元気で長生きをするというのが目的だと思います。先ほども後期高齢者の話がでましたけど、久しく後期高齢者の話がでてあれからもう 5 年経って、私も後期高齢者になってあの頃から後期高齢者の人たちが 75 歳になっても元気で過ごせるように取り組みましょうという形を打ち出されてから 5 年くらい経っております。保健師の人たちも健康チェックなど一生懸命訪問され、家の中に閉じこもったりしないで、みんなのところに、みんなと集まってお話ししたり運動したりしましょうということをして頂いておりますので、私たち住民がもっと自分の健康について考えていかないといけないと思います。施設もあって、何かあったら施設に入ればいいというわけではない時代がたぶん来ると思うので、

私をはじめとして、息子たちが一緒に家にいるわけじゃないし、もし倒れてしまうと息子たちもただ置いておけないということで悪いほう悪いほうにいつてしまう、良いほうに改善するのであればいいんですけどもそういうのを思うと、やはり個人個人が、「いや俺は大丈夫だ」じゃなくて検診を受けて悪いところがあったら改善していくっていうのをこの頃は特に思っております。一家で誰かが倒れると、家庭が崩壊するではないけども施設に入れたとたんにお金がかかるし、そのお金をどうするとかそういうことが今はすごく便利な時代で自分たちが見なくても施設で見ただけという風な時代だけでも、それは本当のある程度の何パーセントかで、その他大勢は施設に入れないわけですので、それを思うと元気で長生きして、寿命がきてころっと逝くのを誰も願っているんですけども、今そういう心掛けた人というか、90代になっても元気で自分のことをしているのがあるのをみると何の差なんだろうなと思います。70代でも全然自分で、自分のことができなくなった人も、やはり自分の健康管理じゃないかな思いましたので、一生懸命みなさんに指導していただいて今私たちは真剣に考えていかないと耐え切れない時代がくると思います。二戸市も人口は減っているんだけど世帯は減らないということは、若者は出て行って、そこに親世帯が残っていて親も一人暮らしになる、それでも頑張っているという世帯が多くなっているんだと、今日の午前中にそういうお話を聞いて人事じゃなく自分のこととして考えてこれから健康づくりをしてもらいたいなという感想を持ちました。私にはコメントも何もいらんんですが、そういう一生懸命職員とか役所のひとたちとか取り組んでいただいている、それに応えていないというのがこの頃感じております。せつかく良いことをやってくれているのに行ってないとか受けていない、受けて再検査を行ってない。検査で見つけてもらった人たちは早期発見ですもんね。そうでなくて自分で感じて行った人はある程度ガンとかなんかでも進んでからだから、そのほうが自分も大変になるから、せつかく良いことをしていただいて検診を受けられる時代なのにまだそういう人たちが多いということが、色々検診を受けるように夕方に受けられるようにとか、日曜日受けられるようにとか、配慮していただいておりますので、ますますこれから声掛けをして検診を受けてもらってみんなが元気で過ごせるようにしていかなきゃならないなと感じておりますので、まずこれからパイプ役として住民との行政との繋がり役をしていきたいなと思っております。

【八重樫局長】

ありがとうございます。まずは個人がちゃんと検診を受けて、自分を知っていいですかね。そこなんです。私自身も健康に自信があって大丈夫だと思っていたんですけども、一応今年初めて人間ドックを受けることにしまして、自分の身体を知ろうかなと思って。健康診断は毎年受けてはいるんですけどね。まずは個人がということですね。

【下山保健福祉環境部長】

脳卒中は、塩分を減らすという取組とともに、運動、禁煙などを含めて幅広く取組を進めていきたいと思っております。委員さんをはじめ、皆様方の御協力をいただきながら市町村と提携しながらやっていきたいと思っております。

それから、検診率につきましては、重症化しないうちに発見しなきゃならないわけで、市町村、いろんな保険者などとも連携を取りながら検診率の向上に繋げていきたいと思っております。

後期高齢のお話もございました。おっしゃるとおり人口は減っても世帯数自体は減らずに一人暮らしが増えてきていますので、先ほど佐藤委員さんのほうからありました、地域包括ケア、いずれお年を召されても後期高齢者になっても地域で生活できるように、みんなが連携して取り組んでいく、行政とか施設の方とか医療機関だけじゃなくて、やはり住民の皆様、地域の人たち一人一人がそういうことについてご理解いただいていくことが必要だと思っておりますので、地域の皆様の理解を得る、PRしていく、説明するということについても力を合わせていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

【八重樫局長】

ご意見いただいたことを肝に銘じて取り組んでいきたいと思っております。それでは長坂委員お願いいたします。

【長坂委員】

台風10号からの復旧というか、これはまだ工事とかできていない部分があると見受けられ、応急手当てで、米を植えたりとかという所が見受けられますので早い復旧をお願いしたいなと一つは思います。

あと農業でいえば、やはり高齢化でまず70歳代の人が多く大勢いて若い人が足りない。何年かすれば多分どんどん減っていくのは気になっていて、後継者とか新規就農者の受け入れは大事なことだとすごく思っています。その新規就農者が入ってきてもその担い手というか、そこまで支援して自分のところまで育てなければいけないんじゃないかなと思います。後継者も同じことだとは思いますが、入っては抜け、入っては抜けをいつもそこで終わっているような気がします。

あと久慈はほうれんそうとかしいたけの産地、これは涼しいからいいんだってことで始めているわけなんですけども、ここ最近温暖化で夏場採れなくなったりとか菌床が腐ったりとかって話も聞くようになりました。だからそのものを増やすとか人を増やすだけでなくこういう対策ですか、温暖化に対しての対策も考えつつ進めていったほうがいいんじゃないかなと思います。

やないのかなと感じてきました。遮光、資材なり、しいたけだったら空調といいですか、そういうのを入れて腐らせないようにということも考えつつ増やしていかないとまずいんじゃないかなと思っています。以上です。

【八重樫局長】

ありがとうございます。新規就農者に関しては相談会とかを行っておりますがいかがでしょうか。

【佐藤農政部長】

新規就農者の相談については随時、農政部と普及センターが一緒になり応じるような体制になっております。新規就農者の相談会については今年既に先週の金曜日にアンバーホールのほうをお借りしてやっております。久慈地域において10名の方が相談に来たということでその方々につきましては引き続きいろいろと本人の希望とかをお聞きしながら支援してまいりたいと思っております。これまでの状況をみますとUターンにより戻って就農されている方が多いということで、今年は8月とか12月、1月、そういった里帰りしたときに相談に乗れるような工夫もしながら対応していこうということで考えています。長坂委員がおっしゃるとおり農業者の確保、新規就農者の確保というものがやはり地域の中での課題ということでございますのでこういったことは引き続き取り組んでいきたいという風に思っているところでございます。

それから夏のほうれんそうとか菌床しいたけの夏場対策のお話なんです、菌床しいたけにつきましては色々と県の補助事業等をもって、空調施設の導入に対する支援をしておりますので予算をしっかりと確保してなるべく希望に答えられるようにやっていきたいという風に思っております。ほうれんそうにつきましては、夏の単価の高いときにいっぱい出せば非常にいいことなんです、どんな品種がいいのかそういったことも検討しながら対応していきたいなと思います。最近では逆に寒じめほうれん草とか冬場の栽培ももっと盛り上げていって、通年でやっていければいいのかなということで、今年は冬場での作付け、そういったものも支援を考えながら対応をしていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

【菊地農村整備室長】

農地の災害復旧の状況ですけれども、まず仮復旧の段階で作付けを諦めないで作付けしていただいたことに大変感謝いたします。農地等農業用施設、水路関係ですけれども市町村が事業主体となって復旧することになってますが、今聞いているところでは久慈管内で54件を国の復旧事業でやる予定ですが、全て工事発注は済んでおります。6月末、7月末を目

標に工事を進めるということで聞いておりました。ただ一部の河川とか大きな道路の災害と接しているところは、そちらの復旧が終わらないと農地のほうに手をかけられないので一部遅れるところがあるかもしれませんが、この夏過ぎに完全復旧すると思っておりますのでよろしくお願ひします。

【高橋土木部長】

いま農地の復旧の関係で護岸とか道路のところは遅れるということなんですけれども、我々は、今まで台風10号災害で何をやってきたかという、まず上流から流れてきた土を取ったり、流木の撤去とかを行ってきたところです。それでこれから護岸の関係を順次発注したいと考えておりますので、平成30年度までを目処に順次完成させたいと考えております。今年度の完成もありますけども目処としては、平成30年度までの完成を目標にしたいと考えております。

【八重樫局長】

久慈川を見ていただくと、土砂、流木、結構高い木とか草も生えていたんですけども取り除いて流れる量を確保して、増えないようにということで、それを今引き続きやっておりますのでよろしくお願ひいたします。よろしいでしょうか。それではお待たせいたしました。最後に成田委員よろしくお願ひいたします。

【成田委員】

資料1のIの若者や女性に魅力ある地域づくりとして、まず一点なんですけれども、地域おこし協力隊の方たちの採用の条件というところです。普代に行って、じえし会に入会していただく方がいたので向こうに行くついでに一緒にお会いしようかなと思って行ったんですが、地域おこし協力隊の方が駅のところ物販だったり、切符売りだったり、そういう業務をしていらっしゃるんですね。本来の地域おこし協力隊の配置の意味とか発信の仕方だったり、そういうところをもう少し積極的にした方がその人の人材をもっといい方向でやれるんじゃないかなというところを強く思った次第です。やはり他県とか他地域のほうから人材派遣でそちらに配置しているということは、プラス何かしら動きが見えて、この人頑張ってるんだな、この地域の人たちももっと頑張らないという感じの、少し威力というかそういうところを仕向けたほうがいいんじゃないかなと思った次第です。

次に、北三陸じえし会というところに携わらせていただいているんですが、ここで申し上げるのもあれなんですけれども、これをしようという目的で合わさった団体では実はないわけなんです。色々お仕事もされていたりボランティアの方もいらっしゃいますし、他業務をされているかたをまとめるっていうことは結構容易ではなかったりするんですね。あと、

目的もしっかりこれに向けて頑張るといふところは何となくピラミッドのこの上のところはだいたい一緒なんだけれども、次に繋がる目的の明確さがあやふやなままで今まで2年間やらせていただいたみたいなどころがあるんですけど、昨年じえし会コレクションという開催の企画に携わらせていただいて、地元に対しての認識があまりされていないというか自分たちが自分たちの地域を認識するという機会だったり、それを認識した上で発信する場だったりっていうもののコンセプトの企画になればもっと地域が活性化になるんじゃないかなというところを強く思いましたね。そこも久慈だけではなくて、色んな他地域というか広域で考えて一番の伝統というか、そういうところの掘り起こすだったり、そういうところに着目したイベントだったりっていうのをやればいいのかなど、活性化につながるのかなと思いました。地域が一丸となってこういうことをやっているんだよというものを表に見せる場をつくりあげられたらまたその地域自体も輝いて見えるんじゃないかなと思いました。

あと余談なんですけれども、私たち手作りの団体をつくっていて、自発的な何か目的を持っている団体っていうのはニーズだったりスピードだったり目的だったりっていうのがしっかりあるので、トントンとイベントに関しても周知に関しても容易だったりするんですね。女性の特権というか、経費のいらぬ周知が容易なんです。少しロコミでいいものがあるとロコミでバースと回ってしまうところを利用というかそういう感じでしていく。女性の心を掴むと、発信源になったり、元気に繋がるというところもあるんじゃないかなと強く思います。tetteの発足と北三陸じえし会の発足がだいたい同じなんです。女性の活力源っていうのが日常生活に刺激だったり楽しいことないかなというところに着目した団体だったりイベントだったりっていうのがあるので、そこらへんを少し頑張っていきたいなと思うのと、そこに市民とか地域団体とか行政との連携があるともっと大きな動きができるんじゃないかなと思っていました。

もう一点、これも多分第一回目の運営委員会でお話をさせていただいたと思うんですけど、就職や進学に関わる学生方の県外流出っていうところでも、流出するのはしょうがないといえませんが、学力だったりというのものもあるかもしれないですけど、戻ってくる魅力、地元に対する魅力があれば、女性目線から申し上げますと子育てにいい環境っていう点では、豊富な資源がこちらにはあるので、伸び伸びと子育てを出来るというところと付随して女性に優しい環境というところが整っていると住みよい地域になるのではないかなと思いました。以上となります。

【八重樫局長】

ありがとうございます。地域おこし協力隊のお話がありましたけれども、これは3年という事で各市町村、地域おこし協力隊という意味でこの方は地域おこし協力隊ですよと地元の人分かるようにしたほうがいいということでしょうか。そういうことではないですか。

【成田委員】

地域おこし協力隊自体の動きが一般の人たちに目に見えて分からない。やはり委員とかで携わっている方々だったら分かっているかもしれないけれども、実際に地域おこし協力隊の方2名と一緒に活動しているんですけれども、そこで話すのが、自分たちの立場というものをどういうふうに動いたらいいんだろうという相談とかいただいていたので、みんなを引っ張っていくじゃないですけどそういう発信の仕方だったり、そういうところもあればいいんじゃないかなと思います。

【八重樫局長】

地域おこし協力隊の方が地域おこし協力隊の方を引っ張っていくということですか。

【成田委員】

地域おこし協力隊の方たちが地域を運営している方たちの先頭、ある意味スパイス的な感じで地域おこし協力隊の方が一緒に頑張っていこうよという感じで協力隊の方に配置されているんですよね。主旨としては、一緒に頑張っていって、例えば山形とか山根とかそういうところに配置されている方でも発信する方っていうのは発信するんですよね。こういうことをやっていますとか。自分のツイッターとか SNS とかを使って若い方が多配置されているでしょうから、そういうところも目に見えて分かるんでしょうけれどもそのやり方を少し疑問に思いました。

【八重樫局長】

市町村で採用しておりますので、情報収集してみたいと思いますけれども、なかなか地域の方を引っ張っていくということは色々な事情で難しさもあるのかもしれないですね。そうなればいいと思うんですけれども。県としては、せっかく地域おこし協力隊ということで県外などから来る方もいらっしゃって、住んでいただいて、いろんなお仕事をやっていただいているので何らかの形で地元に残って、そのまま住んで活躍してもらおう方向をなんとか見出せないかという取組をしようとしています。3年と決められていますので、3年経ったら終わりということではなくて、気に入っていただいたのであればここに住んでいただくということです。そういったところの取組を資料1のIに記載したような所でやりたいなと思っておりました。そうしていただければ人口も増えていくのかなとそういった方向で考えてみたものです。

あとはじえし会については、じえし会のみなさんが地元を認識した上で色々な活動をしたほうがいいんじゃないかということですね。振興局では色々な形でじえし会活動について携わっておりますので、そこらへんを意識してやらせていただければと思います。

それから県外流出の方ですね。U ターンを希望される方に対して地元の魅力、子育てに良い環境などをPRということですが、U ターンや I ターンの方に対しては、色々な形でPRしておりますけれども、この点についても検討してみたいと思います。

あと各委員さんからのお話、振興局からの説明で何か関連して御意見等がありましたらお願いしたいと思います。

【田口委員】

では、漆産業の振興の所で漆を植えたら何年後に漆を掻くようになるのでしょうか。

【阿部林務部長】

興味を持っていただきありがとうございます。漆は植えるとだいたい15年から20年間で掻けます。私は昨年まで二戸におりまして担当しておりました。テレビ等で最近では放映されるので、よく頼まれるのは、電話で、うちに漆木が50本あるから掻きに来てくれないかということです。しかし浄法寺の漆掻きの人は地元において一年間で400本ないとそこで漆を掻けないんですよ。100本ずつを4日にいっぺんずつ掻いていくということです。それでも200万から300万くらいの収入しかないわけです。それを出張してまで50～100本掻いてくれるということは理屈に合わない話になっていきます。もちろんシンボリックな意味で漆を植えていくということはいいんですけども、昔みたいにこっちに1本、あっちに1本と漆掻きの人がそうやって掻いていく時代であればそういうお話も承ることはできたんでしょうけれども、今浄法寺の漆掻きの人は地元において400本終わってようやく一年分というような形でやっていますのでもし植えるということであれば、漆掻き、誰が掻くんだというところまで算段してからでないと、植えたはいいが、というようなことになりかねないということもございます。

【田口委員】

昔はホップを生産していた畑がホップをやらなくなって、そこに漆を植えた人がいて、漆を植えた人はもう亡くなっているんですけどその息子さんとかが今、もう2回くらいその漆を売っているのを見たんですよ。漆を掻くと切ってしまうとその根から出たものを昨年掻いたから何年で掻れるのかと思ったところです。

【阿部林務部長】

植えたのは15～16年から20年かかりますが、今おっしゃったように1回切ると萌芽更新といって、12～13年と早くなります。

【田口委員】

木を育てるのはそういうことだと思っけれども、やっぱり先をみて植樹とかしておけばいいんだらうけど、なかなか漆ってかぶれたりなんかするからやれないとか思ったりしてありました。

【阿部林務部長】

おっしゃるとおりです。地域おこし協力隊の方々ということで二戸市でも各地から協力隊をお願いして漆掻きをしてもらっておりますけれども、やはりかぶれるということです。それをいとわない方が応募してきてくれるというようなことのようにです。

【田口委員】

はい、すみません。ありがとうございました。

【八重樫局長】

資料1の右上のデータで国産漆の7割が浄法寺漆ということです。これは国の方で国内の漆をつかった建造物とか物とか様々ありますけれどもその修復とかそういったものについては国産漆を使う通知等出ております。それに対応して漆産業を振興していこうということで今年度の取組を進めているところです。外国産漆に対して国産漆は非常に質がいいという形になっております。ただ、国産漆は国内で生産量の割合はどうかっていうと3パーセントくらいですか。

【阿部林務部長】

そうです。50トンくらい全国で必要なんですけれども、その1トンくらいしか国産がないといった状況です。

【八重樫局長】

ぜひ今年度力を入れていこうということ取り組んでございます。

【田口委員】

はい。わかりました。

【八重樫局長】

その他に何かございませんでしょうか。

【澤村委員】

はい。私は食生活改善推進員協議会久慈支部長をしております。昨年度久慈市で台風 10 号被害がありました。久慈市にある福祉の村で全国からお越しのボランティアのみなさんに野菜たっぷりの適塩豚汁を提供いたしました。そのときに食改ですから私たちは減塩の啓発もいたしました。本来であれば、力仕事をする濃味を好む方たちが多いんですが、でも気をつけて減塩にも取り組みましょうという啓発をしながらボランティアのみなさんに差し上げました。「私たちは全国をボランティアで回っています」という男性数人の方から「本来炊き出しというのは濃い味なんですが、出汁の効いた美味しい豚汁をいただきました。美味しかったです」と言われました。どんなときでも食改は減塩に取り組む、そして地域の皆さん、全国の皆さんにも減塩のPRをするということはとても大切なことだと思っています。それから昨年度希望郷いわて国体がありました。洋野町では、4 日間で 1750 食を提供しました。そのときも適塩ということで、地元の食材をたっぷり入れながら、出汁を使った美味しい減塩のものを提供いたしました。そして住民の皆さん、全国からお越し頂いた皆さんに心を込めておもてなしをいたしました。以上でございます。

【八重樫局長】

減塩だけでも出汁が効いて美味しいということですね。

【澤村委員】

はい、そういうことです。

【八重樫局長】

減塩の取組も当局でやっております。ちなみに合同庁舎一階の食堂も減塩の味噌汁ということで毎日いただいております。ありがとうございました。

4 その他

【八重樫局長】

そろそろ予定の時刻に近づいて参りましたけれどもよろしいでしょうか。何かありましたらお電話等でもよろしいのでぜひ御意見お寄せいただければと思います。本日は大変貴重な御意見いただきありがとうございました。いただきました御意見については今後の施策の参考とさせていただきたいと思っております。そして「北いわて」を元気にしてまいりたいと思っておりますので今後とも御指導よろしく願いいたします。ありがとうございました。その他何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で議事を終了させていただきます。

5 閉会

【和山参事】

それではこれもちまして、平成 29 年度第 1 回地域運営委員会議を終了させていただきます。なお、御出席いただきました委員のみなさまには御礼の品をご用意させていただいております。今回は久慈市と普代村の特産品ですのでお帰りの際にお持ちいただければと思います。本日はどうもありがとうございました。